

未来の家族へのメッセージ ～ 伝えるバトン絵本 ～

日時：2016年8月28日(日) 13:00～16:00 ※ 開場 12:30

会場：浜松こども館 分室『ここ・い～ら』

〒430-0933 浜松市中区鍛冶町 100-1 ザザシティ中央館 5階

対象：子どもから祖父母世代まで、「3世代1チーム」でご参加ください！

- ・子ども世代(4歳以上～小学生) 1～数名(兄弟姉妹ごいっしょに)
- ・お父さん・お母さん世代 1～2名
- ・おじいさん・おばあさん世代 1～4名

定員：8家族 ※ 応募多数の場合は抽選となります。

参加費：無料

申込み：メールでお申込みください。kodomogaku@takebay.net (静岡大学 竹林研究室)

件名：多世代ワークショップ参加希望

本文：代表者の氏名(ニックネーム)とメールアドレス、当日連絡のつく電話番号
参加者全員の氏名とお子さんとの続柄、お子さんの年齢と性別

※ 大人のみ見学も受け付けております。上記アドレスへお送りください。

件名：多世代ワークショップ見学希望 本文：氏名、所属、メールアドレス、当日連絡のつく電話番号

<ご協力をお願い：メディアへの記録写真掲載について>

当日のワークショップの様子を撮影させていただきます。主催者や講師のウェブサイト等、広報、講演、学術論文、書籍等に記録写真を掲載する場合がございます。また後日、メディアによる取材等に予告なく提供する場合がありますので、ご参加のみなさまには「ワークショップの記録映像」のメディア使用にご同意くださいますようお願い申し上げます。

ワークショップ
参加者募集中!

プログラム

(12:30 受付開始)

13:00 ワークショップ入口のレクチャー

「60年前の子どもの子どもの子どもはだれ？
デジタル映像が 昔と未来をつなぐ」

沢井佳子 (チャイルド・ラボ 所長 静岡大学 客員教授)

13:20 ワークショップ

未来の家族へのメッセージ ～伝えるバトン絵本～

佐藤朝美 (愛知淑徳大学人間情報学部 講師)

朝倉民枝 (株式会社グッド・グリーン 代表取締役)

14:40 絵本作品の発表 どんなお話ができたかな？

15:20 ワークショップをふりかえるレクチャー

「最強のチーム：

老成がわかる子どもと童心がわかる高齢者と」

沢井佳子 (チャイルド・ラボ 所長 静岡大学 客員教授)

「長寿社会の子どもと情報学」

竹林洋一 (静岡大学大学院総合科学技術研究科 教授)



ワークショップ～作品発表

家族のシンボルを選び、それをバトンとして、祖父母→父母→子どもへと3世代間をリレーしながら、3世代共創で1冊の絵本を作ります。これまでの長い命の繋がりの中に今があることを思い、続く未来へと想いを馳せつつ、次世代へ贈る絵本をつくりましょう。

iPadの画面上で、コブタのピッケや仲間たち、さまざまなアイテムを並べていきます。キャラクターは、表情を選びポーズを変えられます。続いて、完成したお話に声を吹き込み、デジタル絵本に仕上げます。

(小さな紙の絵本を作る展開図をお持ち帰りいただきます)



使用アプリ「ピッケのつくるえほん」

iPadなどデジタル機器を触ったことがない方も、安心してご参加ください。



お話づくり



録音



作品発表



おうちで製本してみよう

レクチャー

10月に子ども学会議「長寿社会の子どもと情報学」が開催されます。この会議のサブテーマ「家族・地域・メディアとつくる子どもの未来」を、浜松市で実践する試みとして「デジタルメディアを活用した、多世代共創ワークショップ」を企画しました。未来の日本の社会問題を解決してゆくのは、子どもたちです。おじいさんが子どもだった60年前、65歳以上の高齢者1人のまわりに、14歳以下の子どもが6人もいたのに、2016年の今は、0.5人の子どもしかいません。長寿社会は、高齢者の記憶遺産を受け継ぐ子どもを求めているのに、高齢者と子どものつながりは希薄です。しかし、子どもが「おばあさんも元は子どもで、その子どもの子どもが私だ」という命の物語に気づけば、「おばあさんの思い出を想像すること」が面白くなるでしょう。レクチャーでは、デジタルメディアを活用して世代ごとの思いを「見える化」し、メッセージを伝えてゆく意義と技術について情報学や発達心理学の視点から、ご一緒に考えてまいります。

